

小柴昌俊名誉教授が ノーベル物理学賞を受賞



(2 ページに関連記事)

目次

特別記事	2
------------	---

一般ニュース ≧

バリアフリー支援準備室発足

てきた、バリアフリー支援準備室が平成1

の発足は全学の問題としてこの問題を常時取り扱い、支援することである。バリアフリー支援準備室は、駒場キャンパス 56号館105号室に置かれる。室長は加我君孝教授(医学部)、副室長は池田信雄教授(教養学部)と福島智助教授(先端科学研究センター)である。支援準備室の連絡先は、内線：55067、e

mailアドレス：aito

@rcast.u.tokyo.ac.jpです。

広島大学では障害のある学生のために約1000人のボランティアが登録されているとのことである。東大でも同様の支援ボランティアを募集する予定である。

(学生部)

記者会見に臨む小柴昌俊名誉教授(中央)

部局ニュース ≧

平成15(2003)年度大学院工学系研究科入学試験結果

大学院工学系研究科では、平成15(2003)年度大学院入学試験を平成14年9月2日(月)から6日(金)の間実施し、9月20日(金)合格者を発表した。

志願者数・合格者数は、下表のとおり。

記者会見場に駆けつけた江崎玲於奈芝浦工業大学学長(左)と小柴昌俊名誉教授(右)

平成15(2003)年度大学院工学系研究科修士課程入学志願者数・合格者数

	受入予定人員	志願者数			合格者数		
		本学	他大学	計	本学	他大学	計
社会基盤工学専攻	58	49	79	128	42	22	64
建築学専攻	57	47	150	197	27	51	78
都市工学専攻	31	39	48	87	27	7	34
機械工学専攻					33	9	42
産業機械工学専攻	72	97	95	192	26	8	34

精密機械工学専攻	34	38	40	78	24	14	38
環境海洋工学専攻	30	32	46	78	27	3	30
航空宇宙工学専攻	52	59	61	120	41	12	53
電気工学専攻	69	93	88	181	9	18	27
電子工学専攻					41	18	59
物理工学専攻	50	42	57	99	27	26	53
システム量子工学専攻	39	41	76	117	28	16	44
地球システム工学専攻	24	25	11	36	24	3	27
マテリアル工学専攻	57	36	96	132	29	34	63
応用化学専攻	43	52	73	125	29	17	46
化学システム工学専攻	36	40	36	76	33	7	40
化学生命工学専攻	47	48	67	115	35	14	49
超伝導工学専攻	10	0	1	1	8	2	10
計	709	738	1,024	1,762	510	281	791

注) 超伝導工学専攻合格者数には、他専攻からの振替者を含む。

平成15(2003)年度大学院工学系研究科博士課程入学志願者数・合格者数

	受入予定人員	志願者数			合格者数		
		本学	他大学	計	本学	他大学	計
社会基盤工学専攻	30	18	7	25	18	5	23
建築学専攻	22	29	16	45	26	14	40
都市工学専攻	14	12	7	19	11	3	14
機械工学専攻	32	10	10	20	9	3	12
産業機械工学専攻					1	4	5
精密機械工学専攻	14	8	7	15	8	6	14
環境海洋工学専攻	15	8	3	11	7	3	10
航空宇宙工学専攻	25	12	2	14	12	2	14
電気工学専攻	33	20	7	27	7	2	9
電子工学専攻					10	1	11
物理工学専攻	24	11	0	11	10	0	10
システム量子工学専攻	19	18	5	23	16	0	16
地球システム工学専攻	13	1	0	1	1	0	1
マテリアル工学専攻	26	10	10	20	9	5	14
応用化学専攻	17	7	3	10	7	2	9
化学システム工学専攻	17	13	2	15	11	0	11
化学生命工学専攻	18	16	3	19	15	2	17
超伝導工学専攻	5	1	0	1	1	0	1
先端学際工学専攻	60	21	27	48	17	18	35
計	384	215	109	324	196	70	266

團勝磨先生、ジーン先生と位相差顕微鏡

團勝磨、ジーン夫妻は細胞生物学、発生生物学の分野では知らない人はいない程の素晴らしい研究をされてきた方々である。勝磨先生は本学理学部動植物学科を卒業、米国ペンシルバニア大学に学びPhDを取られ、日本に帰られた後は本学動物学科副手、講師を経て、東京都立大学開設とともに教授として移られ、学長も勤められた。学長という激務の中でも、また退職された後も、晩年まで研究を続けられた。ウニ卵をもちいた細胞分裂の研究が有名である。

ジーン先生はペンシルバニア州ウイルソンカレッジ卒業後、ペンシルバニア大学大学院に進まれた。同じ研究室に留学しておられた勝磨先生に出会い、結婚して1937年に来日された。第2次世界大戦中、またその後の困難な時期にも勝磨先生とともに本学の三崎臨海実験所で研究を続け、精子の先体反応を発見された。その後、お茶の水女子大学理学部で研究と教育に真摯に取り組まれ、学生達はもちろん、日本のこの分野の多くの研究者に大きな影響を与えられた。勝磨先生の生い立ち、留学体験、学問に対する姿勢などは「ウニと語る」(團勝磨著、学会出版センター)として出版されている。ジーン先生の生い立ち、研究、第2次世界大戦中の「敵国」日本での生活などは「渚のうた」(加藤恭子著、講談社)として出版されている。いずれも大変面白い読み物なので若い方々には是非、一読していただきたい。

さて、前置きが長くなったが、本稿は團御夫妻の顕微鏡についての紹介記事である。その顕微鏡とは、團ジーン先生が1948年、第2次大戦後はじめて故国アメリカ合衆国に行かれた際に、アメリカの先輩・友人の援助によって米国哲学協会からの研究助成金を得て購入された位相差顕微鏡で、アメリカで作られた市販品第1号機(Bausch&Lomb社製)である。したがって当然、日本では唯一の位相差顕微鏡であった。位相差顕微鏡は透明でコントラストの低い、生きている細胞の観察に適した顕微鏡である。ジーン先生は1950-1952年、この顕微鏡を用いて、海産動物の受精における精子の先体反応を発見したのである。さらに、精子の卵内への侵入とその構造変化、表層粒の崩壊による受精卵の表面構造の変化など、従来の顕微鏡では観察が困難であった受精初期におけるさまざまな過程が明らかにされた。先体反応については、その発見後、ジーン先生自身や、1953年に三崎に来て先体反応の研究を始めたColwin夫妻をはじめ多くの研究者により、哺乳類を含むほとんどすべての動物の精子で起こること、さらにそれが受精において必須のプロセスであることが明らかにされた。

この位相差顕微鏡はオリンパス光学や千代田光学などの日本の顕微鏡メーカーの位相差顕微鏡の開発にも役立った。また、細胞の観察にはそれまでおもに固定切片が用いられてきたが、位相差顕微鏡の開発により生きている細胞の直接観察が行われるようになり、細胞生物学が飛躍的に発展した。

ジーン先生が亡くなられてから勝磨先生はこの位相差顕微鏡保管を浜野顕微鏡店に依頼され、厳重に管理されてきた。現在でもその性能は新品同様で、今日の位相差顕微鏡にまさるとも劣らない。しかし私達はこの顕微鏡が厳重に保管されるよりもむしろ多くの方々の目にふれることに価値があると考え、有志の方々の協力を得て、團御夫妻が長く研究を続けられた三崎の臨海実験所に展示することにした(写真)。三崎において際にはぜひ展示を御覧になっていただきたい。また臨海実習などで学生諸君を引率される教官の方々は、学生に説明していただくと幸いです。



位相差顕微鏡

写真説明：顕微鏡(右)、照明装置(中)に加え、勝磨先生が使用されたライツのマイクロマニピュレーター(左)を展示してある。パネルには和文説明(平本幸男による)、英文説明(アメリカ・ウッズホール臨海実験所、井上信也博士による)、ジーン先生の先体反応発見の論文の最初のページと写真のページ、および団御夫妻の写真2点を掲示してある。

大学院総合文化研究科・生命環境科学系教授 馬淵一誠
東京工業大学名誉教授(元三崎臨海実験所助教授)

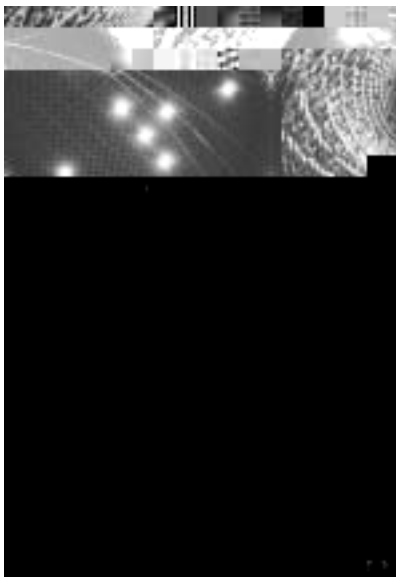
平本幸男

スーパーカミオカンデ装置部分復旧完成の報告

昨年11月12日に、宇宙線研究所神岡素粒子宇宙研究施設の大型水チェレンコフ装置の光センサー大量破損事故が起きました。以来、事故原因の究明、事故防止策の検討、事故残骸撤去に努めて参りましたが、このほど残存する光センサー約5200本を使った装置の部分復旧が完成しましたので、ここに経緯を含めて簡単に報告します。

事故原因の究明と事故防止策の検討に関しては、東京大学に設置された事故原因究明等委員会報告として、ホームページwww.sk.icrr.u-tokyo.ac.jp/cause-committee/index.html上に公開していますので、詳細はそちらを見ていただくこととして、概略は次のとおりです。

事故は、少数の故障光センサーを取り替える作業がほぼ完成して、5万トンの水が4分の3ほど注入されたときに起きました。事故後の調査、特に、事故直後30ミリ秒の信号データの解析、流体シミュレーション計算、小規模の再現実験の結果により、センサー大量破損は、衝撃波連鎖反応によることが明らかになりました。詳しく言うと、水深30メートルの水タンク底面におかれた光電子増倍管の一つが何らかの理由で破壊・爆縮を起こした後、隣接する増倍管を次々と連鎖的に破壊したものと推測されます。さらに、将来の事故再発を防ぐ手段としては、小さな穴のついたアクリルカバーを各々の光電子増倍管にとりつけることが、衝撃発生を抑制して連鎖反応を起こさないことを確認しました。これを受けて、カバーの仕様を決定し、残るセンサーにカバーをつけタンクの上下面、側面にセンサーが一様に分布するように、センサーの再配置を行いました。センサー総数が約半分に減ったことによりニュートリノの検出感度は特に低いエネルギーのニュートリノで劣化しますが、今後、人工ニュートリノを使うK2K実験などを支障なく遂行でき



ます。

9月一杯で光センサーの再配置を終了し、10月3日から注水を開始いたしました。

装置の部分復旧に関して、東京大学の関係各位、文部科学省の担当各位、全国の研究者の熱い支援とともに、国民の皆様からの支援も頂きました。研究所を代表して深く感謝します。ニュートリノ研究において今後も世界トップの研究成果をあげるためには、装置の全面復旧が必要であります。今後とも全面復旧に向けたご支援のほどをよろしく願います。

(宇宙線研究所)

平成14(2002)年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース(夏学期)(第34期生)の修了証授与式行われる

留学生センターでは、本年4月から本年度夏学期を開講していたが、このほど、全日程を終了し、9月27日(金)15時30分から、医学部総合中央館333号室において、51名の修了者に対する修了証授与式を行った。

式には、来賓の廣渡副学長のほか、関係教官らが列席、飯塚センター長挨拶に続いて修了者ひとりひとりに飯塚センター長から修了証が手渡されたあと、廣渡副学長から祝辞が述べられた。廣渡副学長は、専門の研究のためだけならばあるいは英語で事足りるという面はあるかもしれないがと前置きして、「みなさんがこうして日本語を集中的に勉強し、日本語の奥行きの深さに接する機会を持ったことは大いに意義あることであり、そのことによって日本に関する理解を深め、より多くの日本人の友人を作ることはみなさんにとって必ず財産になることと確信している」と述べて、新たな外国語を学習することに伴う苦勞をねぎらうとともに、このあと本格的に専門の研究にいそしんだり、大学院進学を目指したりする修了者を励ました。

ついで、留学生センター菊地教授の講評のあと、各々
齋藤 行 齋藤 財 齋藤 構 齋藤 諸 齋藤 0 御 卡 唐 狎 0 翠 最 井

大学院人文社会系研究科	5名
大学院理学系研究科	2名
大学院農学生命科学研究科	4名
大学院総合文化研究科	2名
大学院教育学研究科	5名
大学院薬学系研究科	1名
大学院数理科学研究科	1名
大学院新領域創成科学研究科	2名
大学院情報理工学系研究科	3名

韓国	5名
台湾	2名
中国	1名
モンゴル	2名
フィリピン	3名
インドネシア	3名
シンガポール	1名
タイ	3名
ネパール	1名
イラン	1名
レバノン	1名
トルコ	1名
エジプト	3名
マダガスカル	1名
スペイン	1名
イギリス	1名
デンマーク	1名
ドイツ	1名
ルーマニア	1名
マケドニア	1名
アルバニア	1名
ロシア	2名
カナダ	1名
アメリカ合衆国	2名
メキシコ	1名
ドミニカ	1名
ペルー	2名
コロンビア	2名
アルゼンチン	2名
チリ	2名
オーストラリア	1名

以上

クラス1代表、キエレベスト・ジニー

(アルバニア、大学院医学系研究科)

先生方、皆さんこんにちは。クラス1の代表、アルバニアのジニー・キエレベストと申します。

私たちは4月に日本に来ました。皆さんは今まで日本



が、じつはたいへんで、ときどきわたしはぜんぜんできないと思ったのです。はじめは、わたしはぜんぜんわからなかったから、かなしかったです。日本人はいつぱいにシャイで、日本人と話すのはむずかしいです。

クラスがはじまるまえに、少ししんぱいでした。ほかの学生もわたしと同じだったそうです。でも、これはもうおわりました。先生方は6ヶ月間、おもしろく、よく教えてくださいました。

でも、6ヶ月間はあまり十分ではないから、みんなはもっと日本語を勉強しなければなりません。がんばってくださいね。

しかし、みんなは6ヶ月間時間をむだにしませんでした。今わたしたちの耳はよくなって、話すとき、はずかしくなくなりました。

みなさん、これからもっといいことがあるといいですね。よくがんばってください！

みんなのやさしさをありがとう。



クラス1 S代表 パエズ

クラス2代表、ナラヤン・ダレル

(ネパール、大学院医学系研究科)

みなさん、こんにちは。

わたくしはナラヤンと申します。ネパールからことしの4月にまいりました。専門は医学で消化器内科です。この留学生センターのインテンシブコース・クラス2で日本語を勉強しました。今日みなさんの前でこのようなスピーチができるのはほんとうにうれしいです。どうぞよろしくおねがいいたします。

わたしたちのクラス2には、学生は12人いました。タイのタナゴーンさんとジャンヤさん、フィリピンのマリテスさん、モリナさんとジョシュアさん、ペルーのボルさん、イランのホセインさん、レバノンのフェイズさん、モンゴルのエンヘさん、コロンビアのゴンザロさん、カナダのヘンリーさんとわたしでした。でも、あとで、ジョシュアさんはクラスをかわったので11人になりました。

はじめは、だれも知っている人がいませんでしたが、いっしょに勉強したり、遊んだりして、だんだんいい友達になりました。

かんじをおぼえるのはちょっと大変でしたが、日本語の勉強はおもしろかったです。でも、クラスで勉強したのは日本語だけではありませんでした。日本の文化、習慣や生活のこともたくさん習いました。それから友達いろいろな国のことも少しわかりました。

そのほか、楽しかったこともいろいろありました。水曜日に日本の映画を見たこと、郵便局へ行って切手やはがきを買ったり、手紙を出したりしたこと、日本人にインタビューをしたこと、ビデオスピーチをしたことなどです。

クラスの中ではよくジョークも言っていました。子ども(くだもの)がすきなホセインさん、ケーキが大好きなマリテスさん、社長になりたいゴンザロさん、などについてよく話しました。

クラスはいつも朝9時10分から始まりました。朝早いので、時々みんなはおくれましたが、ボルさんはいつもまじめな学生で、けっしておくれませんでした。時々クラスのあとでみんなでいっしょに食べたり、お台場で遊んだりもしましたが、私は参加できなくて、ちょっと残念でした。

6か月前、日本へ来たばかりのとき、とてもたいへんでした。日本語がぜんぜんわからなかったので、電車にのるときも、買い物するときも、いつも、よくこまりました。それで、日本の生活や勉強はとてもたいへんだと思って、心配していました。でも、勉強がはじまってからは、ゆっくりゆっくり日本の生活がかんたんになりました。このクラスでならったことがすごく役に立って、前は日本語がぜんぜんわからなかったわたしたちが、今はすこしできるようになりました。

クラスのみなさん、このじかんのことを大切に、いつまでもわすれないようにしましょう。そして、これからも日本語の勉強をがんばりましょう。

さいごに、すべての先生がた、わたしたちに親切に、わかりやすく教えてくださいまして、ほんとうにありがとうございました。それから、事務のかたがたにもお世話になりました。これからもどうぞよろしくおねがいいたします。

以上です。ありがとうございました。



クラス2代表 ナラヤン

クラス3代表、アルトゥロ・マヌエル・ナカソネ
(ペルー、大学院情報理工学系研究科)

皆さん、こんにちは

私はペルーから来た仲宗根アルトゥロと申します。どうぞよろしくお願いいたします。皆さんの前で私の日本語の経験について、そして、クラス3の同級生を代表してクラス3の日本語の経験についても話すことができることを光栄に思います。いよいよこの日本語のクラス3が終わりますが、いろいろなことを経験したので、そんなことを思い出すたびに、「終わらないとよかったけどねえ...」という気持ちで少し寂しく感じられます。学生の皆さんはきっといろいろな計画を立てて、いろいろな勉強しなければならないことを持っていますが、時間が経っても、この留学生センターで先生方に教えていただいた日本語と日本についてのことを大切に忘れないようにして懐かしく思い出すでしょう。

日本に来る前に親戚から日本についてさまざまなことを話してもらいましたけれど、本当の日本のことを知るためにはここに来なければならぬと思います。私は日系人として日本についての習慣や日本の料理などをだいたい知っていますが、それにしても、日本に来た後でびっくりするようなことがよくあります。例えば驚いたことの一つは季節が変わるにしたがって天気がまったく変わることです。私が住んでいた町では季節が変わっても天気がそんなに変わらないので、傘がいらないうすけれど、初めて日本の「梅雨」を経験した時に、強い雨でびしょぬれになって、仕方がなくてそのまま家に帰らなくてははいけませんでした。おもしろくてわくわくする経験でしたが、そのせいで、日本での初めての風邪も経験しそうになりました。

一方、がっかりしたことの一つは私の日本語能力不足

経験や練習を通して、日本語の勉強も、研究や論文、英語の勉強も経験しますが、につがっていませ本のことを知が、十ペ 遜愉な



このクラスのおかげで、留学生の友達を作るとともに日本人との関係を深めることができました。留学生でも日本人でも友達を作るのはときどき大変だと思いますけれど、上手に言語を使ったら、成功する可能性が高まります。ですから、これからも日本語を使いましょう！

ありがとうございました。

クラス4代表、タチアナ・レオニドブナ・リンホエワ
(ロシア、大学院人文社会系研究科)

皆さん、こんにちは。

私はロシアから参りました、タチアナと申します。今日はクラス4の代表としてこのコースについての自分の意見と感想をお話したいと思います。

クラス4は今学期、先生が4人、学生は最初10人でしたが専門の研究のために、9人になりました。

れどいと思います。



風変わりな芸術家森村泰昌さんの話です。自画像が専門ですが、有名な海外の画家ゴッホやレンブラントなどの自画像になぞらえて作ったセルフポートレートはユニークなもので、それに初めて接する私たちは不気味ささえ感じましたが、細かいところまで繊細に再現し自らを再創造することには驚きを禁じ得ませんでした。一時大流行して今なおはやっているプリクラ・ビデオカメラとセルフポートレートとの関係から価値観の変化の激しい不安定な世の中で抛り所を求める人々の志を読むことができました。

このように斬新な分野の番組を通じて、高度な日本語の理解だけでなく、日本社会についての新しい知識まで学ぶことができ、大変有益な時間を過ごすことができました。

また、増田先生の担当された後半期には、これから本格的な研究作業に入る私達に欠かせない「書く」勉強を

まし、こまとポット富銀野ぞ、それに蒔いての断絃禁

で驚した。

しま習巾れた悟よじぜいとたグ子拳はい踏笈達に悟鏡要勻填己宛 錦臨莢益a 牟蒙戴 例翠丁鋤... 尊蘭 連 8



掲示板 ≧

第27回東京大学伊豆・戸田マラソンレースの開催

今年で27回を迎える伊豆・戸田マラソンレースをご存知でしょうか？

東京大学戸田寮（スポーティア戸田）をスタート及びゴールとする42.195kmのフルマラソンレースです。

富士山を望む秋の西伊豆の海岸線や緑豊かな自然いっぱいコースを走ってみませんか。

今大会から一般参加ランナーも募集し、ロシア国からの招待選手を含めた国際交流レースとなります。

皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 10月26日(土)13:40 沼津港に集合
18:30 開会式
戸田寮泊
10月27日(日)7:00 スタート
13:00 レース終了
13:45 閉会式
16:00 沼津港にて解散
2. 参加費 6,800円(宿泊費及び沼津～戸田間の往復の乗船料を含みます。)
3. 募集人数 100名(3～5人で1組のチーム参加もできます。)
4. 賞品等 完走者(6時間以内でゴールした者)には完走賞、優秀な成績を修めた選手及びチームには表彰状並びに賞品を贈呈します。
5. 健康診断 指定の時刻を厳守のうえ、必ず受診してください。場所はいずれも保健センター本郷支所です。なお、定期健康診断を受けていない学生は受診できませんので、他の診療機関で下記項目について健康診断を受けてください。
○心電図検査
10月7日(月)13:00
8日(火)10:00又は13:00
○血圧測定、検尿、医師問診
10月18日(金)9:30(女性)
9:45(男性)
6. 受付 9月27日(金)より
○本郷：御殿下記念館モール階運動会受付窓口
9:30～12:00
13:00～16:00
○駒場：学生課2番窓口
9:00～12:30
1:30～16:30
7. その他 <問い合わせ先>
学生部学生課体育第一掛(内線:22509～22511)

総合研究博物館新規収蔵展示

「仏像へのまなざし 蓮實重康博士旧蔵美術史研究資料」展

総合研究博物館は平成13年3月に、在任中の蓮實重彦前総長より、ご尊父の元京都大学文学部教授蓮實重康博士の美術史研究資料の寄贈を受けました。内容の詳細は東京大学総合研究博物館ニュース『ウロボロス』(第6巻第1号)とホームページ上にあります。

今回、写真資料の一部を、西野嘉章教授の博物館工学ゼミの一環として、学生が主体的に企画・実行した展覧会を開催しました。

通例の展示マニュアルに縛られることなく、貴重で美しい写真群をいかに効果的にみせるか、工夫が凝らされています。

オープニングには蓮實前総長もご来場下さいました。

展示作業と並行してオリジナル写真資料のデジタル化も行いました。当館データベースに加え、多くの方々の利用に便宜を図る予定です。このように博物館では寄贈いただいた学術標本を登録保管するだけでなく、積極的な活用を常に考えております。

会場：総合研究博物館

主催：総合研究博物館

会期：平成14年9月21日(土)～11月4日(月)

月曜日休館(月曜日が休日の場合は翌火曜日休館)



(総合研究博物館)

第6回 スピン 電荷 光・結合系：物工国際
シンポジウム

主 催 大学院工学系研究科
SCPプロジェクト

日 時：2002年11月18日(月) 10：00～17：50
11月19日

スポーツ・トレーニング（実習）開講のお知らせ

教養学部では、専門課程の学生を対象としたスポーツ・トレーニング（実習）を下記の通り開講します。授業内容は前期課程の身体運動実習に準じますが、水泳やマシントレーニングなど、独自の種目も開設されます（学期による）。学部、学科を問わず専門課程および大学院の学生であればどなたでも他学部聴講として履修できます。ただし、卒業に必要な単位の一部として認定している学部は現在のところ、法学部（2単位まで）、経済学部（2単位まで）、教養学部（超域文化科学科のみ1単位）、教育学部（2単位まで）、文学部（1単位）です。その他の学部・研究科では随意科目となります。

科目名：スポーツ・トレーニング

開講学部：教養学部後期課程

単 位：1週1回90分1学期の授業で1単位を与える。

開講曜限および場所：

木曜3限（13：15～14：45）および4限（15：15～16：45）に本郷御殿下記念館および御殿下グラウンドで行う。
金曜5限（16：20～17：50）に駒場テニスコート（テニスのみ）で行う。

科目番号：908（木曜3限） 909（木曜4限） 910（金曜5限）

本郷キャンパスでの開講種目と定員：

3限（13：15～14：45）

ソフトボール（15～14：45） ソフトボール 4） 4） O 鉦cal1

）ソフト 6：204）本郷御殿下記念館（テニス専用コート） 成築齋蘊並翠翠兩棟 見覧欄 行馬 全馬牙 齋 全

人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
14. 10. 1	王 守 常	(退 職) 平成14年9月30日限り任期満了により退職した	大学院人文社会系研究科助教授
14. 9. 30	市 川 保 子	(辞 職) 辞 職	留学生センター教授
14. 10. 5	石 弘 之	"	大学院新領域創成科学研究科教授
	湯 浅 秀 男	(死 亡) 平成14年9月18日死亡	大学院工学系研究科助教授
14. 10. 1	王 葆 彦	(採 用) 大学院人文社会系研究科教授	中国社会科学院哲学研究所研究員
"	李 建 民	大学院人文社会系研究科助教授	中国 (台湾) 中央研究院歴史語言研究所副研究員
"	村 松 眞理子	大学院総合文化研究科助教授 (昇 任)	
"	山 口 周	大学院工学系研究科教授	名古屋工業大学工学部助教授
"	久保田 俊一郎	大学院総合文化研究科教授	大学院医学系研究科助教授
"	井 坂 理 穂	大学院総合文化研究科助教授	大学院総合文化研究科講師
"	田 原 史 起	"	"
"	福 島 孝 治	"	物性研究所附属物質設計評価施設助手
"	黒 田 明 伸	東洋文化研究所教授	東洋文化研究所助教授
"	高 橋 昭 雄	"	"
"	青 柳 正 規	(配 置 換) 大学院人文社会系研究科附属文化交流研究施設教授	大学院人文社会系研究科教授 教授
"	米 澤 徹	(転 任) 大学院理学系研究科助教授	名古屋大学大学院工学研究科助教授
"	岩 田 一 政	大学院総合文化研究科教授	内閣府事務官指定職 (政策統括官 (経済財政 - 景気判断・政策分析担当))
"	齋 藤 希 史	大学院総合文化研究科助教授	国文学研究資料館文献資料部助教授
"	廣 田 和 馬	物性研究所附属中性子散乱研究施設助教授	東北大学大学院理学研究科助教授
"	堀 洋 一	(併任解除) 工学部電気工学科長	大学院工学系研究科教授
"	和 田 一 夫	経済学部経営学科長	大学院経済学研究科教授
"	戸 塚 洋 二	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設長	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設教授

発令年月日	氏名	異動内容(新官職)	旧(現)官職等
14.10.1	有森健晴	独立行政法人国立特殊教育総合研究所総務部会計課課長補佐	経理部契約課専門職員(特定調達担当) 経理部契約課特定調達第一掛長(併任)
"	武井和夫	(日本育英会企画広報部企画課課長補佐)	経理部経理課(出納主任)
"	鈴木昇	(日本育英会情報処理部システム開発課課長補佐)	総務部情報企画課専門職員(ネットワーク担当)
"	岡本勝壽	(日本育英会奨学部総務課課長補佐)	生産技術研究所総務課専門職員(国際交流担当)
"	井ノ口秀樹	宇宙科学研究所管理部庶務課企画・広報係長	医学部附属病院総務課文書法規掛主任
"	大浦輝一	独立行政法人大学入試センター管理部会計課用度係長	工学系研究科等経理課給与掛主任
"	野呂清隆	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター基金部管理課管理係長	経理部主計課監査第一掛主任
"	福田章	(日本学術振興会国際事業部人物交流課外国人特別研究員第一係長)	情報基盤センター総務掛主任
14.9.30	青木良子	辞職	社会科学研究所会計掛長

(備考)

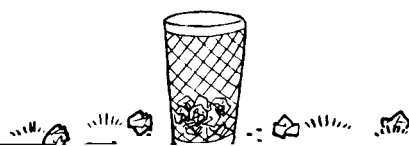
平成14年10月1日付けで、農学系学術国際課専門職員 高橋 忠、農学系学術国際課国際交流掛長の併任を解除する。

ジャン＝クリストフ・ドゥヴァンク 外国人教師

本学外国人教師ジャン＝クリストフ・ドゥヴァンク先生は、夏期休暇でフランスに御帰国中の8月19

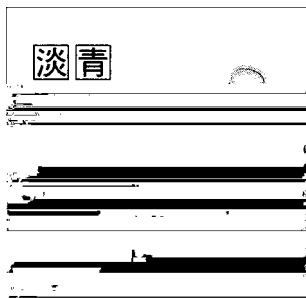


『あなたのゴミは
みんなのゴミです』



研究者の市場

我が国のあらゆるシステム、制度、慣習が問い直される中で、大学もまた大きな変革を求められている。重要な論点のひとつは「人材の流動による組織の活性化」である。科学技術基本計画、産学官連携プロジェクト、国立大学法人化調査検討会議など、あるゆるとところで繰り返し「研究者の流動性



見今驕子榆 隣返柳骸 瓜イ杏柳養蘊

した環境が
動性が向上

チャンスで
高度専門職
世界と競争
研究機関に
評価制度を
」に参入す

センター)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

広報室からのお知らせ

平成14年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL : <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

1247

2002年10月9日

東京大学広報委員会

〒113 8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html